

2010年3月14日福島県沖の地震（M6.7）の周辺の地震活動

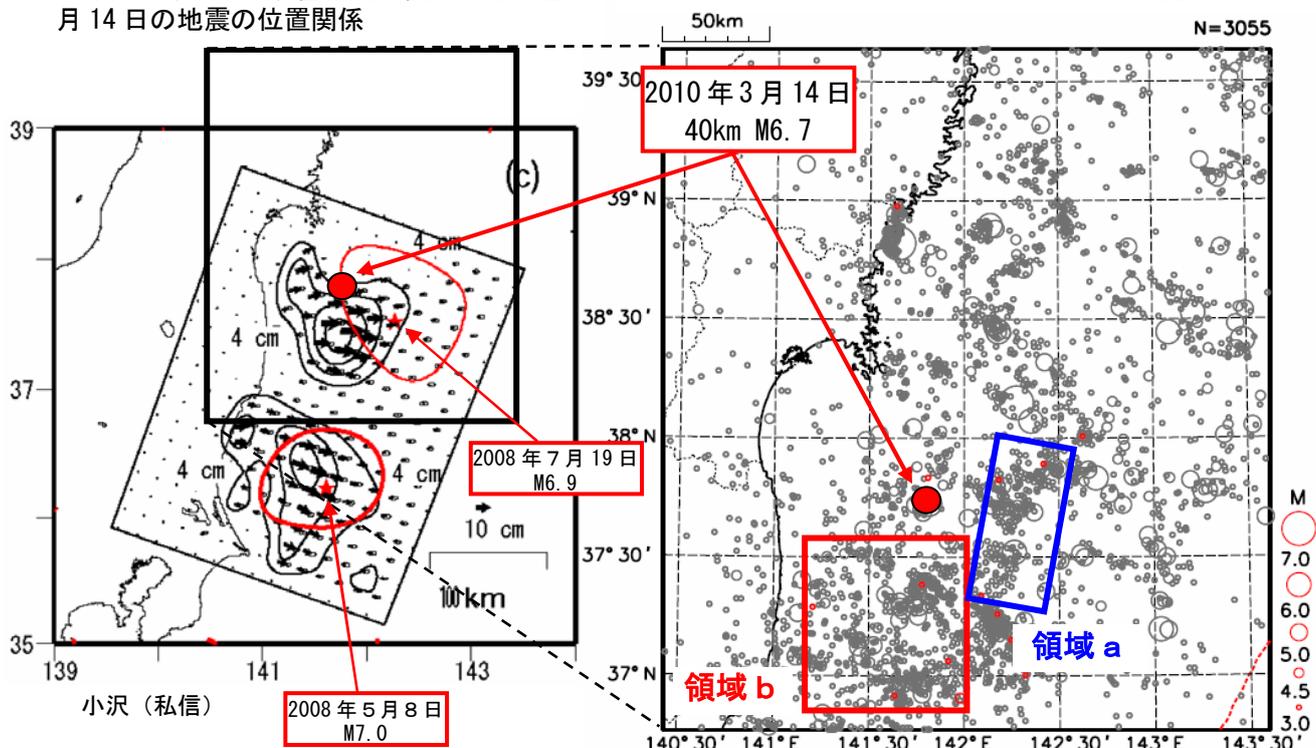
（地震前のドーナッツパターン検出と2008年福島県沖の地震（M6.9）後の余効変動との位置関係）

東北地方の地震活動の監視の一環として、明田川・伊藤（2008）の方法で地震活動の静穏化・活発化を検出することにより、地震活動の変化の把握を行っている。2009年初頭から福島県沖の領域a（図1）では地震活動が低下していた。2010年2月に入り、ドーナッツパターンが顕著となった（図2上）。その後2010年3月14日にM6.7の地震が発生し、ドーナッツパターンは解消している。静穏化の領域も徐々に狭くなってきているように見える（図2下）。

今回発生したM6.7の地震は、静穏化領域を検出した領域の西縁に位置している（図2上）。また、2008年7月19日の福島県沖の地震（M6.9）の余効変動（小沢、私信）の北縁に位置している（図1）。

2008年の茨城県沖の地震（M7.0）及び福島県沖の地震（M6.9）の余効変動（2008年7月26日～9月21日、国土地理院による）と3月14日の地震の位置関係

震央分布図（1997年10月1日～2010年4月24日、M3.0以上、深さ150km以浅のプレート境界付近）
※デクラスタ済み、2010年4月1日以降の地震を赤く表示



領域内の地震活動経過図、回数積算図

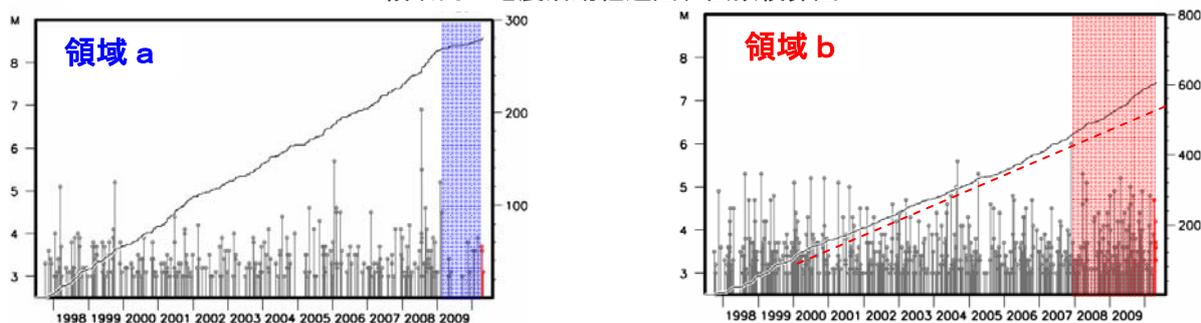


図1 福島県沖とその周辺の地震活動

1997年10月以降のプレート境界付近の地震活動（M3.0以上、デクラスタ済み）